

ありがとう 氷川高等学校 県立氷川高等学校閉校記念式典



▲校旗収納で、校旗を披露する生徒

3月2日、氷川高校で閉校記念式典が行われ、最後の卒業生となる21人を含め、同窓生や歴代校長、職員など約500人が出席し、学舎に別れを告げました。

同校は、普通科全日制の高等学校として昭和49年10月1日に設立認可を受け、翌年4月11日に第1期生188人が入学。39年にわたり、5443人の卒業生を送り出しました。

卒業生を代表し、角田直樹さんが「最後まで氷川高校は私たちの誇りでした。氷川高校ありがとうございました」と別れの言葉を述べました。

同校は、3月1日に閉校式を行った八代南高校と統合され、南高校の校地を引き継ぐ八代清流高校として生まれ変わります。

35年の歴史に幕 県立八代南高等学校閉校式



▲最後の卒業生の手で校旗がたたまれ、返還された

3月1日、八代南高校の閉校式が同校体育館で行われ、卒業生など約650人が出席しました。

八代南高校は、昭和53年に普通科の高校として渡町に創設。平成24年に氷川高校（鏡町）と統合し、新たに八代清流高校となったことから、この日、八代南高校の最後の卒業生155人を送り出し、35年の歴史に幕を閉じました。卒業生の総数は7497人。

閉校式では、最後の卒業生を代表し、3年の岩田海さんが「南高で学んだことを誇りに思う。閉校は寂しいが、南高の精神は清流高校へと引き継がれ、新しい時代の幕開けとしてほしい」と母校に別れを告げました。

菜の花栽培で環境にやさしい農業 環境保全型農業推進コンクール 最優秀賞受賞



▲左から「やつしろ菜の花987」の稲津義博さん、岡初義さん、沖田利光さん

「第19回環境保全型農業推進コンクール」で最優秀賞（農林水産省生産局長賞）を受賞した「やつしろ菜の花987」の岡初義さんら3人が、3月11日に市役所を訪れ、市長に受賞の報告をしました。

このコンクールは、環境保全型農業を目標とした経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業集団などを表彰するものです。

「やつしろ菜の花987」は、平成18年に菜の花の栽培による循環・環境農業の実践を目的に設立されました。

本コンクールでは、農地が無駄なく活用される輪作体系を確立することで、化学肥料や農薬の低減を図ることができた点と、オーナー制を取り入れた菜の花の商品開発を行うなど、6次産業化への取り組みが地域活性化につながった点が高く評価されました。

金融知識の普及に貢献 金融知識普及功績者表彰受賞



▲受賞した齊藤信子さん（左）と岩本好美さん（右）

「2013年度金融知識普及功績者」として表彰された、市消費生活センター相談員の岩本好美さんと齊藤信子さんが、2月13日、市長に受賞報告を行いました。

国民の金融に係る知識の普及・向上に功績のあった個人と団体に対して、金融担当大臣と日本銀行総裁がその功績を顕彰するもので、本年度は全国で個人の部13人、団体の部3団体が受賞しました。

岩本さんは「悪徳商法対策」「契約トラブル対策」など、齊藤さんは「悪徳商法対策」「多重債務防止」などをテーマに、学生から高齢者まで幅広い層を対象に講演を行うなど、金融知識の普及に貢献しています。岩本さんは「アドバイザーとしての時間はとても充実していた。受賞できて嬉しい」。齊藤さんは「今後も巧妙な悪徳商法が出てくる。後輩を育てるとともに、市民に頼られる存在でありたい」と語りました。

100歳 おめでとうございます



陣内 利子さん
(八幡町)
大正3年3月12日生

郡築で生まれ育った利子さんは23歳で結婚し、3人の子どもを授かりました。歌や踊りが好きで、婦人会の行事などで披露したこともあり、何でも「美味しい」と食事を楽しんで、という利子さんの長寿の秘訣は「やりたいと思ったことを自由にやってきたこと」。



伊織 チヨキさん
(妙見町)
大正3年3月10日生

菊鹿町で生まれ育ったチヨキさん。警察官だった夫の転勤を機に八代に移り住み、現在は息子夫婦と3人で暮らしています。人形や小物作りが得意で、現在も小さな折り紙を使い、手まりなどを作っています。長寿の秘訣は「何でも食べること」。



土谷 タマエさん
(植柳元町)
大正3年3月8日生

現在、娘さんと2人で暮らしているタマエさん。7人兄弟の3番目として育ち、植柳に嫁いで6人の子どもを育てながら、助産師の仕事をしてきました。退職後は、畑仕事や徒歩での買い物を楽しんでいたといいます。長寿の秘訣は「できることは、なるべく自分ですること」。



橋本 テルさん
(坂本町)
大正3年3月3日生

現在、施設で生活しているテルさん。坂本町で生まれ育ち、若い頃は畑仕事に精を出していました。歌が大好きで優しい性格から、周囲からは「テルちゃん」と呼ばれ慕われています。長寿の秘訣は「のんびりと、そしてよくよいしないこと」。



前田 マサノさん
(鏡町)
大正3年2月15日生

体を動かすのが好きで、週3回の体操にも参加しているマサノさん。鏡町で生まれ育ち、同じ鏡町内に嫁ぎ、7人の子どもを授かりました。夫は会社員で、マサノさんは農業を手伝い生計を支えました。長寿の秘訣は「感謝の気持ちを持ち続けること」。

ソーラー街路灯を植柳公民館へ寄贈



▲街路灯を開発した生徒と関係者

八代工業高校情報技術科の生徒7人が開発・改良を重ねたソーラー充電型パワールED街路灯1本を植柳公民館に寄贈することになり、2月19日、植柳公民館で贈呈式が行われました。近隣校区の人々に何か恩返しをしたいという思いから始まり、要望が強かった街路灯を開発することになりました。開発に携わった情報技術科3年の松田優也さんは「学校で学んだ電子回路やプログラミングを生かすことができた。街灯の数が増えるよう、後輩に受け継いでほしい」と語りました。

ミス・ユニバース・ジャパン日本大会出場



2014ミス・ユニバース・ジャパン熊本大会で優勝した二見本町の柿本友里恵さんが、

2月18日に市役所を訪れ、市長に優勝と日本大会出場の報告をしました。ミス・ユニバース・ジャパンは「世界一の美女」を目指す女性をプロデュースし、その成長プロセスを描く、年間を通じた美の祭典です。熊本大会では、ウォーキングやスピーチなどを行い、人間性・感性・内面の美しさ・自信・知性などの項目で審査を受けました。柿本さんは「貴重なチャンスをつかんだ。努力すれば目標を達成できることを証明したい」と抱負を語りました。

城下町「やつしろ」のお雛祭り



▲琴姫コンテストでグランプリに選ばれた井手尾真美さん



▲迫力ある演奏で会場を圧倒した雅太鼓

2月15日、第12回城下町「やつしろ」のお雛祭りのオープニングセレモニーが、本町2丁目イベント広場で行われました。第三中学校箏曲部と秀岳館高校雅太鼓部による華麗で力強い演奏によりスタート。日奈久かぐや雛のお披露目や甘酒・雛あられの振る舞い、今年初めての企画として「琴姫コンテスト」が行われました。優しく愛情に溢れた現代の琴姫を、「母性度」や「八代への思い度」など5項目で審査があり、井手尾真美さん（氷川町）がグランプリに選ばれました。3月9日までの期間中、市内各地で雛祭りのイベントが行われました。



野菜市場だんだん市



▲高齢者に大好評

3月6日、宮地地区の空き地でだんだん市が開催されました。これは、高齢者などが遠くへ行かなくても買い物ができるように、地元住民などが中心になって毎週金曜日に開催しているもので、今回で10回目です。販売されている野菜や果実などは八代の農家などから仕入れたもので、人参や白菜など約45種類が売台に並びました。宮地町の山節子さんは「近くで野菜を販売してくれるからとても便利。助かります」と笑顔で話しました。

八代市善行児童生徒表彰式

子どもたちの善意の行いを表彰



▲表彰を受けた児童

八代市善行児童生徒表彰式が2月27日に厚生会館で行われ、市内小・中学校の3団体・27個人が表彰を受けました。これは、社会奉仕活動や突発的な事故に対する人命救助を行うなど、模範となる活動を自発的に行ったものを表彰するものです。金剛小学校は、登校時のあいさつ運動を全児童で4年間取り組み、団体で表彰を受けました。代表として出席したあいさつ運動運営委員の松村百香さん(5年)は「一朝から元気にみんなであいさつを交わすのは気持ちがいいです。これからも続けていきたい」と話しました。

ノリ手すき体験



2月25日、八竜小学校5年の児童16人がノリ手すき体験をしました。児童たちは、不知火地区漁業

士会の会員から、ノリの種作りから収穫までの話や収穫後に使用する機器の説明を聞いた後、ノリの手すきに挑戦。厚さを均一にするのに苦戦していましたが、会員から手ほどきを受け、1人5枚ずつ丁寧に作り上げました。黒山翔真くんは「杵にノリをまんべんなく広げるのが難しかったけど、初めてノリ手すきを体験できて楽しかった」と笑顔で語りました。天日干しされ風味豊かになったノリは、後日、おにぎりに巻いて食べました。

新八代駅に ばんぺいゆロード



▲完成したばんぺいゆロードを歩く園児

3月10日、JR新八代駅の新幹線改札付近に晩白柚800個が30mに渡って台の上に並べられた「ばんぺいゆロード」が完成し、披露されました。九州新幹線新八代・鹿児島中央間の部分開業10周年と全線開業3周年を記念し、また、「フードバレー構想」のPRも兼ねて県と市が取り組んだものです。この日は、八千把幼稚園と八千把保育園の園児約50人が新八代駅を訪問し、猫やタヌキ、ウサギ、熊などをマジックや折り紙で描いた晩白柚を並べました。

八代広域行政事務組合消防表彰



▲左から淵川ハツモさん、木村千代子さん、中山シズミさん(淵川雅代さん、淵川真光さんは都合により欠席)

連携した素早い救助活動で人命を救ったとして、昭和国际の木村千代子さん、中山シズミさん、淵川ハツモさん、淵川雅代さん、淵川真光さんの5人に対し、3月10日、市長が市役所で表彰状を贈りました。2月23日、木村さん、中山さんは排水路内で女性が転落して動けなくなっていたところを発見。通りかかった淵川ハツモさんは、孫の真光さん呼び、4人で排水路から女性を引き上げました。淵川雅代さんは、車で女性を自宅へ送り、救急車が来るまで応急処置などを行いました。女性は一命を取りとめ、回復に向かっているということです。

八代オープンラージボール卓球大会



▲熱が入ったラリーが続く

3月8日と9日に市総合体育館で、60歳以上のシニア選手による第4回八代オープンラージボール卓球大会が開かれました。八代市卓球協会の主催。開会式では、白石善吾会長が「ラージが結ぶ友好の輪(日韓交流大会) 楽しむあなたが一番です」の大会スローガン実現に向けてがんばってください」とあいさつしました。今回は初めて韓国と Guam から8チーム35人が参加し、国内各地からの参加も合わせると、110チーム475人が個人戦と団体戦で熱戦を繰り広げました。